



TAKE FREE
¥0

Appearance

evadeJP が 13 年培った『技術の粋』を総結集！！

2004 年から現在まで実に 13 年もの間、活動してきた『evadeJP』。本誌では『evadeJP』の歴史や過去に制作してきた作品の紹介、そしてこれから企画している“ピアノ・ソロプロジェクト”について作曲・演奏者の Takehiro Okumura のインタビューで徹底解説。

evadeJP

Sync Record

Phantom 総合技術研究所

『映像』『グラフィック』『デザイン』『音楽』



私たちはモノがあふれる現代に モノづくりの“楽しさ”や“大切さ”を 知ってもらうための活動に取り組んでいます。

私は非営利 社会人サークル『evadeJP』として様々な映像、DTP、メディア、音楽、Web コンテンツなど幅広い媒体を使った制作に取り組み、物があふれる現代により多くの方にモノづくりの“楽しさ”や“大切さ”を知ってもらうための活動に取り組んでいます。

この活動は私たちが“やりたいこと”ではなく、『何ができるか?』を追求し、自分たちの技術や知識を駆使し『様々な媒体』という表現手段を使ってアプローチをしています。

非営利 社会人サークル『evadeJP』

2004 年に非営利社会人サークルとして evadeJP を設立し、短編映画制作を開始。
翌年、インターネット放送局を開設し、ポッドキャストの配信を中心とする Web コンテンツの制作を行う傍ら、モデル撮影や DTP、広報誌、さらには DVD や Blu-ray などのメディア作品のジャケットデザインやパッケージングまで行う。
2010 年、ハイビジョン制作へ移行し、様々な企業・団体取材した映像作品や奥村自身が書いた脚本によるビデオクリップを制作。またオリジナルグッズなどの制作も実施。
他、自身のスキルを生かし、友人知人のパソコン導入やネットワーク構築、修理やウイルス駆除などの依頼、財務管理ソフトの開発も行う。

運営理念

- ・『ないものねだり』への追究。
- ・『出来ないこと』は行動して考える。
- ・自分が取り組むことに自信と誇りを持つ。

< 制作技術 >

- DTP 制作 (パンフレット、ポスター、ステッカー)
- 映像制作 (取材映像、ショートムービー)
- メディア制作 (Blu-ray、DVD などの完パケ)
- Web コンテンツ制作、公式サイト evadeJP の運営
- イラスト (キャラクター、ロゴ・デザイン、ノベルティ)
- 音楽制作 (作詞、作曲、演奏)
- 技術開発 (自主制作機材の開発・機材のカスタマイズ)
- システム管理 (PC 導入、ネットワーク構築、配線工事)
- システム保守 (ソフト開発、修理、ウイルス駆除、復旧)



奥村 健大
Takehiro Okumura

昭和 57 年 12 月 29 日生まれ
長崎県/A型/事務職
長崎県立長崎水産高等学校
情報通信科 卒

■職務経験

販売、営業、事務、医療・福祉

■資格・免許

大型自動車 第二種 運転免許
(バス型/旅客運送)
第二級海上特殊無線技士 免許
(レーダ級海上特殊無線技士の操作範囲を含む)
第三級陸上特殊無線技士 免許
普通救命講習 1

■仕事受注歴

パソコン導入・ネットワーク構築
パソコン修理、ウイルス駆除、バックアップ作業
パソコン教室
アプリケーションソフトの使い方指導
家計簿ソフト開発
映像編集依頼
外部制作会社への制作依頼コンシェルジュ

■取扱ソフト

Microsoft 系

Access、Word、Excel、
Visual Basic for Applications

Adobe 系

Photoshop、Illustrator、Premiere Pro、
After Effects、Dreamweaver



松下 龍己
Tatsumi Matsushita

昭和 58 年 3 月 23 日生まれ
長崎県/B型/会社員
長崎県立長崎高等技術専門校
商業デザイン科・溶接科 卒

■職務経験

販売、溶接、事務、飲食業

■資格・免許

普通(現8トン限定中型)自動車 第一種 運転免許
フォークリフト 4t未満
第二級海上特殊無線技士 免許
(レーダ級海上特殊無線技士の操作範囲を含む)
第三級陸上特殊無線技士 免許
普通救命講習 1
床上操作式クレーン運転技能講習
玉掛け技能講習ガス溶接
特別教育修了証自由といし 2 条(グラインダー)
アーク溶接 4 条
産ロボット 18 条
危険物取扱者丙種
A-2F(被覆アーク溶接)
SA-3F 3V 3H(半自動溶接)
TN-F P(ティグ溶接)

■仕事受注歴

名刺・メンバーカード制作、企業ロゴデザイン

■取扱ソフト

Adobe 系

Photoshop、Illustrator

その他

SYSTEMAX SAI、Autodesk AUTO CAD



代表（配信局長） 奥村 健大

私は学生の頃『音楽』に憧れ、20歳の頃にキーボードを購入しました。しかし何度挑戦しても挫折を繰り返したため「目立つなら他のことでも」と、ローカルタレントを目指し、数十社のオーディションを受けていました。

それから応募のPRにもなるかと思い、2004年には映画制作行『現・evadeJP』を創設し、一作目が完成したまでは良かったのですが、二作目で出演者が集まらず、新たな道すら閉ざされてしまいました。

翌年「テレビに出られないのなら、放送局ごと作ってしまおう!」と『インターネット放送局』を開局し、インターネット・ラジオ・TVなど、番組制作と配信を開始しました。

そして2009年「映画でなくともやっぱり映像を作りたい」との思いから、その時に旬なネタを探し、様々な企業・団体取材する企画を考え、西日本各地への取材を行いました。またそれと並行して『ショートムービー制作』や制作した映像をDVDやBlu-rayなどメディアにまとめ、これがきっかけで企業からも注目されるようになり、『evadeJP』はいつしか、複合的なコンテンツを集合させた“メディア・コングロマリット”となりました。

撮影モデル**広報の顔として『モデル』を起用。**

2005 年



2006 年

広報誌の表紙を飾るモデルとして、過去に2名の女性モデルが起用された。

2009年以降はモデルが卒業したため、奥村自身が務めるようになり、メイクやヘアメイクも自ら行うように変移していく。

今日の『evadeJP』の屋台骨を支えてきたのは、彼ら、彼女ら“モデル”あつてのことで、代表である奥村は「もしその出会いがなければ、今の evadeJP はない」と言っている。

イラスト**『手書き』『水彩』『アニメ』と描き分ける専属イラストレーター。**

イラスト担当の松下は主に奥村がデザインしたロゴマークのデータ化を担当。また彼は個人でもイラストを描く活動も行っており、イベントへの出店や過去には雑誌に掲載された実績もある。

それから業としても企業のロゴマークや名刺の受注も行う。





『物語』で伝えるメッセージ性。

【ショートムービー作品】



『桜沿線』

春の桜を題材に福岡市西区の沿線でロケが行われた。奥村自身の携帯小説の舞台となった場所でもある。タイトルは野口五郎さんの“私鉄沿線”から取られた。



『帆夏～ほのか～』

大分県と宮崎県高千穂でのロケが行われた、夏を題材とした作品。今作は初のハイビジョン撮影が行われ、Blu-ray 作品のパイロット盤となる。



『今夜も S&B ハピファミカレー』

S&B 様から招待され、長崎市高島と伊王島でロケを行う。活動 10 周年を兼ね、2004 年ぶりに奥村が出演し、また初の奥村と松下のツーショットとなった作品。

奥村は様々な映像作品を制作してきたが、やはりショートムービーを制作するのが一番好きだと話している。取材映像ならば、数時間撮った映像を編集していけばいいのだが、ショートムービーならそうはいかない。何故なら、1 時間撮った映像が最終的には 5 分くらいに編集されてしまうからだ。

それから『ハピファミ』では CM を意識した映像制作だったため、奥村がオリジナルソングの作詞・作曲を行い、松下が DTM と呼ばれるコンピューターで音楽を作るソフトをマスターしたことで音源化にも成功した。

監督・脚本：Takehiro Okumura



メディア制作

僕らにとって大切な手に取ってもらえる『メディア作品』

【メディア作品】



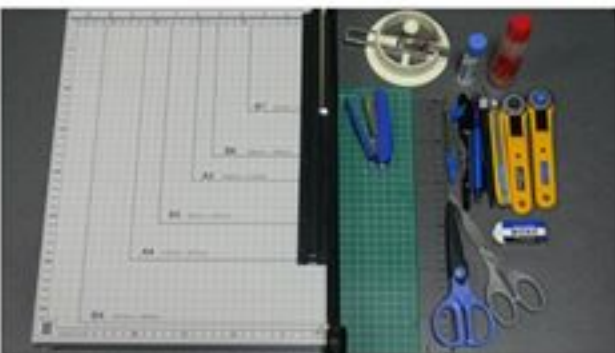
ネットは便利だけど“作品を手にとってもらうこと”が大切。

活動当初、作品を「市販の DVD みたいに作ったら面白いかも」と思い、試行錯誤を繰り返し、現在までに様々な DVD や Blu-ray のジャケット制作からパッケージングまで行ってきた。

evadeJP の作品は本当に細かいところまで拘っており、初回特典や映像特典、缶バッジやステッカーなどのノベルティーにも力を入れている。そのおかげか、奥村の元上司の子どもさんにもご好評いただいているほど。

今やインターネットが普及し、便利な世の中になったが、奥村は「やっぱり作品を手にとって貰った方が『温かさ』を感じてもらえる」と言っている。

evadeJP はパソコンを使った制作を行っているが、そのすべてがデジタルではなく、アナログな“マニファクチュア”であるところも特色である。



制作会社へ応募した際、PR したところ「趣味と仕事は違う」と全否定されたため、個人的に制作依頼が来たら受けることにしたのだという。そうすることで仕事としての実績や評価となるため、奥村は映像編集と DVD 制作、松下は名刺やロゴマーク制作などを請け負ったことがある。それから『ベクレル』という作品では放射線についての“正しい知識”を理解してもらうため、大学教授に協力していただき、社会貢献の一環としての活動にも取り組んだ実績も積んでいる。



制作局 Selene エンターテイメント

■2004 年

『愛することすら、許されない』

Selene Media



2004.10.01



2004.10.28

Selene エンターテイメントロゴ



Selene Media



■2005 年【第一期活動】

配信局 Selene エンターテイメント



Sele_net
オフィシャルサイト
Ver1
(Mobile 版 : Ver1.1)



2005.04.30
【Complete Book】



2005.09.01
【広報誌】



2005.09.01
【マガジン】



2005.12.02
【CD EXTRA】

Selene エンターテイメントロゴ

Selene Ent.
Selene Entertainment

デジフォト



■2006 年【第二期活動】

17520・ずっと、さよなら



2006.01.31
【広報誌】・【CD+DVD】

PodCasting



2006.08.31
【広報誌】・【CD+DVD】



Sele_net
オフィシャルサイト Ver2
(PC 版・Mobile 版 統合)

ポッドキャスト番組



らぶ・
みゆ・
ぽっど

配信局 日本 Evade

■2010 年【第三期活動】

心霊 SP2

～事件の真相を追せよ～



2010.02.01
【DVD】 【広報誌】

心霊 SP3

～歴史の軌跡を辿れ！～



2010.04.01
【DVD】

列島！歴史・遺産の旅

～九州横断編～



2010.04.01
【DVD】

The Coal Mined

～軍艦島 × 池島炭鉱～



2010.09.30
【DVD】

『桜浴線』



福岡市西区ロケ



evadeJP
オフィシャルサイト Ver3

日本 Evadeロゴ

日本 Evade
Evade Japan

evadeJPロゴ

evadeJP

■2011 年



2011.04.01
【広報誌】

心霊 SP4
SPIRITUAL MESSAGE
～九州脱出・本州上陸篇～ 『帆夏～ほのか～』



2011.12.01
【DVD + Blu-ray】



大分
宮崎高千穂峡ロケ

■2012 年【第四期活動】

心霊 SP5
SPIRITUAL MESSAGE
～四国上陸・九州帰還篇～



2012.05.01
【DVD + Blu-ray】

ベクレル
Becquerel



2012.06.01
【DVD + Blu-ray】

くまモン仏壇



2012.08.12
【DVD + Blu-ray】

■2013 年

今夜もふたりでハピファミカレー



2013.05.08

■2014 年

『Tell me, I love you』 『言えないの？ さよなら…』



2014.06.14



2014.07.15

『Feeling of girl's Talk』 ロゴ



ノベルティー & グッズ



イラスト



■2017 年【第五期活動】

『Cry For Mercy』



2017.05.13
【CD + DVD】

『Appearance』



2017.05.13
【CD + Blu-ray】



2017.05.13
【広報誌】

『Cry For Mercy』



奥村 健大 肖像画



evadeJP
- 公式サイト - Ver4

New evadeJPロゴ



evadeJP 公式エンブレム



Works&Distributions
evadeJP

evadeJP 紋章





Cry For Mercy

Takehiro Okumura

テーマは『創生』。

ピアノ・ソロ プロジェクト『Cry For Mercy』。
クラシカルでありながら、歌謡曲や演歌を彷彿させる楽曲はこれまでの奥村が発想できなかった“世界観”を創り出すこととなった。
今回は彼にミュージックビデオ制作を含め、密着取材を行った。

Takehiro Okumura × evadeJP

今まで僕はクリエイターとして活動することが中心でした。しかし、今回は演者側に立つということで evadeJP のクリエイターではなく、evadeJP を制作会社のような立ち位置として、制作を進めました。クレジットも『Total Produced by Takehiro Okumura』と表記しているよう、僕がすべての制作に関わっています。



楽曲『Cry For Mercy』について。

今作品の楽曲は『Cry For Mercy』というのですが、この曲の調は嬰ハ短調という、いわゆる黒鍵が多い調であるため、演奏の難度が高くなっています。また演奏にはトレモロや音の厚みをつけるオクターブなどの奏法が取り入れられ、拘りあるピアノ・ソロの楽曲として制作しました。

<デジタルとアナログの融合>

『アナログ』なピアノ演奏への拘り。

今回の制作では音的にも、ビジュアル的にも、僕の拘りで『グランドピアノで』と決めていたのでミュージックビデオ撮影は、旧上海銀行長崎支店様をお借りしました。

ちょっと舞台裏の話になるのですが、ピアノ演奏は予めサウンドデータとして収録していたので撮影ではその音源をイヤフォンで聴きながら、演奏シーンを合わせるという手法を取りました。ですが、イヤフォンで聴く音よりも演奏するピアノの音の方が大きくなるため、合わせるのに結構、苦労しました。因みに演奏収録は KAWAI 製グランドピアノで行い、VTR 撮影では YAMAHA 製グランドピアノを使用しています。

『デジタル』なオルゴール・イントロの秘密。

この楽曲は『オルゴール』で始まるのですが、これも僕の拘りです。またイントロのネジを巻く音は実際のオルゴールを分解し、ネジを巻く音だけをサンプリングしました。その際のノイズも実はあえて消さず、残しています。それは所謂、アナログ感を出すためです。しかしオルゴールで鳴るメロディーは『デジタル』制作を行っています。何故なら、オルゴールは機械的に均一なリズムを刻むものだからです。手法としてはパソコンの DTM でメロディーを打ち込み、その上でデジタル・ミュージック・シンセサイザーの音源を使って、サンプリングするという複雑な処理をしています。



人生で一番やりたかったにもかかわらず、幾度と挫折に苦しんでしまった『音楽』。しかし、ピアノ演奏を手に入れた瞬間、僕は創作と音楽という、大きな財産を手にすることができた。それは創作の道を歩んでも『音楽』という夢を捨てなかったからだと思う。どちらにしても『創作』と『音楽』は共通する“エンターテインメント”には変わらない。

一番やりたかった『音楽』への挫折。

僕は高校生の頃、浅倉大介(access)さんに憧れ、社会人になってから好きな曲の楽譜とキーボードを購入しました。「これで憧れの浅倉さんに一步近づく！」と意気込んだものの、左右の手を動かすことすらできず、挫折してしまいました。その後も何度も挑戦したのですが、思いは届かず、当時の僕は『音楽』を諦め、映像を主体とする創作活動にシフトしました。しかし、10年取り組んだ僕の創作活動のスキルはやがて自信へと変わり、根拠もなく「今ならできる」と13年後の現在、遂に『音楽』を手にすることができました。



メイク & スタイルもセルフプロデュース。

僕はメイクやスタイリストも自分で行うのですが、路線は活動当初から変わらず、V系メイクに近いものとなっています。僕にとって『奥村』という“アーティスト”としてのイメージを作ることは大切に個性を作ることも僕にしかできないという“付加価値”だと思っています。特に今作の場合、コンセプトが『クラシック調』だったので衣装はフォーマルなものにしました。因みにリボンは僕の拘りで特注品です。また作中ではウィッグを被っているのですが、これは松下が描いた僕の肖像画をもとに僕が10代からお世話になっている美容師さんに切って貰いました。それから他にもリングやカラーコンタクト、耳にはショッキングピンクの羽根ピアスをしたりと細かい演出にも徹底的に拘っています。ただ僕は耳に穴を開ける嫌だったのでイヤリングに改造しています。



長崎市の地域振興も意識したMV制作。

今作の企画として僕は2つの『思い』を込めて制作に取り掛かりました。

ひとつはこれからの若い世代に『夢を持ってもらいたい』という思いです。夢とはいえ、必ず目の前に壁が立ちはだかる時がきます。そんなとき諦めるか、諦めないかで『夢』への勝敗は決まると思います。夢というのはどんなものでもいいと思います。芸能人になるという大きなものだったり、入社したい会社への就職という現実的なものだったり…。何より『夢』に必要なのは“勇気”や“希望”だと思います。

それは挫折から脱却した僕だからこそ説得力のある言葉を届けられると思います。

そしてもうひとつは今作を企画したときに浮かんだ長崎旅博覧会のキャンペーンソングの“私ここにあります”の影響です。

僕にとってこの楽曲とCMの印象は大きく、僕も地元長崎に貢献できるような映像作品を制作したいと思いました。



TEXT : Takehiro Okumura

Reboot...

現代は不景気で若い人に夢を持つ人が減ったように感じています。その上、昔のようにモノ作りをしなくてもモノがあふれる“便利な世の中”となりました。最近ではパソコンや高価な機材を揃えなくてもスマホとアプリさえあれば、誰でも手軽に制作を楽しめ、20代女子の間では写メを簡単に加工したり、動画を撮ってSNSにアップロードするなど、現在では男子より女子の方がモノ作りに関心を持っているようです。僕から見れば彼女たちは列記としたクリエイターです。こんなことを言ったらクリエイターらしくないかもしれませんが、誰でも手軽にモノ作りができる世の中になったことは僕にとって、とても喜ばしいことです。寧ろ僕はアイデアさえあれば“技術はいらない”と思っています。

僕が『制作』を始めた頃、作品を友人に見せても苦笑され、暇人扱い。また制作会社にPRしても作品が未開封のまま返送されたり、無視されたり、「趣味と仕事は違う」と否定されたり…。

当時のバイト先でも「いつまでふらふらしてるの？」と馬鹿にされることも沢山ありました。

学生の頃に大人が言っていた“努力すれば報われる”“特技は多い方がいい”という言葉が嘘だと感じたこともあります。

しかし、そんなとき僕は「夢を持てない世の中になったのは大人に責任がある」と思うと同時に自分の活動を通してこれからの世代に『夢』を与える活動をしようと思いました。

若いときに『夢』を持つことは大切で、その夢が叶えば理想的ですが、例え失敗したとしても『夢』が叶わなくとも、そこから学ぶことや出逢う人の影響で新しい『未来』や『目標』が出来ると思います。

僕ら evadeJP が活動当初から変わらないこと…。

それは『伝える』ということ。

これからも、ずっと、この『思い』は変わることはありません。



Takehiro Okamura

団体沿革

2003年	『Phantom 総合技術研究所』を設立。 ・当時奥村は高校卒業後、地元に残った松下 龍己と再会。松下が専門校在学中だったことを知り、彼からPCやCGを学ぶ。
2004年	『制作局 Selene エンターテイメント』を創設。 ・映画制作を目的に『Selene エンターテイメント』を創設し、シーボルト大学“ピースな映像祭”に自主制作短編映画「愛することすら、許されない」を応募する。 ・Selene エンターテイメント傘下に『Selene Media』を設置し、写真撮影や広報誌、DVD メディア制作などの DTP 製作を行う。 総技研 ・Adobe Photoshop や Illustrator を中心とするソフトウェアを使い、DTP 製作やインクの吸着実験、レーザー印刷並みのクオリティーを出す、用紙の研究を行う。 ・映像撮影用のブーム竿マイクを自主開発する。
2005年	『配信局 Selene エンターテイメント』に制作方針転換。 ・地元誌“ザ・ながさき”で出演者募集を募るが集まらず、制作局から配信局へ運営方針を転換。 ・映像製作から撤退し、インターネット放送局“Sele_net”を開局。インターネットラジオ番組“ラジネット・ウエーバー”【毎週月曜 30 分・(2 部制有)】や“らぶ・みゆ・ぼっど”など、自主制作番組の配信を開始。また携帯版サイトも併設される。
2006年	『日本 Evade』を創設。 日本 Ev. ・Selene エンターテイメントが制作・配信するインターネット番組の出演者をマネージメントするオフィスを創設。 Selene Ent. ・インターネット放送局を“Sele_net”オフィシャルサイトとしてリニューアルする。(Ver.2) ・“ラジネット・ウエーバー TV”の企画が生まれ、映像の配信実験を兼ねて番組の制作・配信を行う。 総技研 ・“ラジネット・ウエーバー TV”が夜間撮影だったため、赤外線撮影の実験を行う。(光学機器)
2009年	日本 EvadeがSelene エンターテイメントを『配信局 日本 Evade』として吸収合併。 ・Selene Ent. と Selene Media を運営統合・再編を行い、配信局 日本 Evade として制作・配信、スタッフのマネージメントおよび著作物の管理を一本化。また制作ジャンルの“スマート化”も図る。ポッドキャスト番組“ラジネット・ウエーバー”が放送終了。音声配信から映像製作へ変移する。 ・映像制作を再開し、西日本各地の観光地、パワースポット、心霊スポットなどへ行くなど、取材形式の活動を開始する。 ・DVD や Blu-ray などのメディア制作に本格参入する。 ・2004 年の短編映画から 5 年ぶりに、奥村個人名義でビデオクリップ『桜沿線』を制作する。
2010年	総技研が日本 Evadeの“制作・編集システム”をハイビジョン化する。 ・従来のデジタル制作からハイビジョン制作に移行し、実験と実用化を並行して行う。 ・PC、ビデオカメラ、ソフトウェア共に全て一新され、編集システムの構築、技術研究を行う。
2011年	『日本 Eavde』の傘下に『evadeJP』を設置。 ・ネット配信と取材活動を行う新たなブランド“evadeJP”を設置。 ・ハイビジョン制作第一弾、奥村個人名義でビデオクリップ『帆夏～ほのか～』を Blu-ray & DVD で制作する。
2012年	YouTubeでの映像配信を開始し、オフィシャルサイト『evadeJP』を開設。 evadeJP ・規制緩和として、今まで制作した映像を Youtube で配信開始することに決定。 ・オフィシャルサイト“Sele_net”から、“evadeJP”に移行される。(Ver.3) ・大学教授に交渉し、正しい放射線の知識としてサイエンス企画『ベクレル』を制作する。 『くまモン調査隊！』 ・熊本県地域振興企画として“くまモン”を使ってお仕事をされている方に密着取材を行い、Blu-ray & DVD、動画配信を行う。
2013年	奥村 健大名義で『S&Bハビファミカレー』コンテストに応募。 ・奥村個人名義で映像制作を行い、これまでなかった奥村と松下が出演する映像作品が制作される。 ・今作が初で奥村作詞・作曲の楽曲が DTM で制作される。
2014年	新たな音楽ユニット『Feeling of gil's talk』を結成し、音楽制作を開始する。 『Feeling of gil's talk』 ・音楽とデザインのユニット『Feeling of gil's talk』を結成。 ・オフィシャルサイト“evadeJP”の配信・運営を終結する。
2017年	所属事務所『Sync』を創設し、自主レーベル『Sync Record』を運営する。 evadeJP ・今までの制作に音楽が加わり、総合エンターテイメントが強化され、公式サイト『evadeJP』が正式運用開始(Ver.4) Sync Record ・奥村名義でピアノ・ソロプロジェクトを開始。「長崎の地域振興企画」及び「若い世代に夢を！」と MV を制作。 ・『CD + Blu-ray』 & 『CD + DVD』メディアと広報誌、公式サイトが揃い、真の“総合エンターテイメント”を達成する。



取材道路マップ

平成29年 1月 2日 現在
近畿・北陸 (大阪・滋賀・福井) 計画

2017年 5月13日発行 ■ 不定期 ■ 発行ノ／ナルチゲート(平成29年 5月13日)配信許可 ■ 日本 Evade logo design: PHIFRAME



☆☆☆Special Thanks☆☆☆

「軍艦島を世界遺産にする会」坂本 道德 理事様
「長崎大学 先端生命科学支援センター」松田 尚樹 教授
「核に反対する津山市民会議」石尾 禎介様
くまモン仏壇「輪島漆器仏壇店」永田 幸喜 社長
「RKK メディアプランニング」くまモン & くまモン隊
「熊本安全タクシー」配車課、ドライバー様
「バイカーズ菊陽店」店員様
「くまもとサプライズ！」ボンボ藤井様
「放射線影響研究所」様
「広島県 竹原市まちづくり推進課」様
「育霊神社」沖津 且房 宮司
「環境省 中国四国地方環境事務所」様
「環境省大久野島ビジターセンター」様
「旬彩工房 三徳山ガイド」山田 長俊様
「十宝山 大乘院／鬼のミイラ」様
「良福寺／髪の伸びる人形」様
「タレント 稲川 淳二」様
旧上海銀行長崎支店様
大浦天主堂様
㈱長崎の路地裏 Cafe 様

